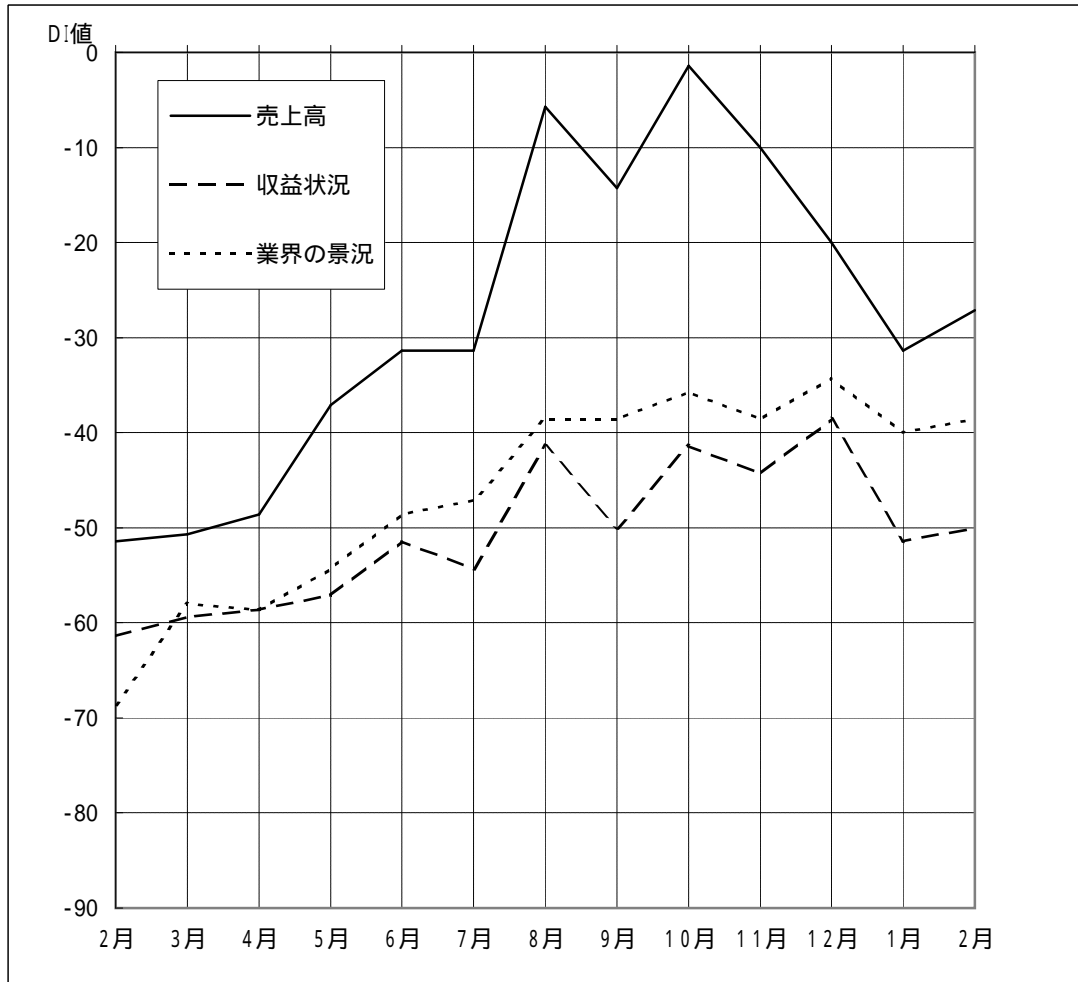


グラフ
業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値
平成15年2月～平成16年2月

単位:ポイント



	平成15年												平成16年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
売上高	-51.4	-50.7	-48.6	-37.1	-31.4	-31.4	-5.7	-14.3	-1.4	-10.0	-20.0	-31.4	-27.1
収益状況	-61.4	-59.4	-58.6	-57.1	-51.4	-54.3	-41.4	-50.0	-41.4	-44.3	-38.6	-51.4	-50.0
業界の景況	-68.6	-58.0	-58.6	-54.3	-48.6	-47.1	-38.6	-38.6	-35.7	-38.6	-34.3	-40.0	-38.6

2月のDI値をみると、前月より全ての項目で好転した。「売上高」は前月より4.3ポイント改善し、マイナス20%に推移した。「収益状況」においては1.4ポイント改善したが、前月同様50%台を継続中している。「景況」は前月より1.4ポイント改善し、マイナス30%台に推移した。ここ3ヶ月の傾向値をみると中小企業の業況は、一進一退の様相である。

業種別の「景況」をみると、製造業全32種中、増加6、不変15、悪化11であり、前年同月より悪化が10減少した分、好転が4、不変が6増加した。主に「鉄鋼・金属」「一般機器」で好転した。また、非製造業では、全38種中、好転0、不変16、悪化22であり、前年同月より悪化が7減少した分、不変が7増加した。主に「卸売業」「商店街」で不変の割合を増加させた。

組合の特記事項からは、全体的に製造業では、材料価格の上昇による収益面の圧迫化、安値競争による収益面の圧迫化によって、厳しい状況が続き、景気回復の実感は得られないとする報告が多かった。また、全体的に非製造業においても、価格競争と仕入値の高騰により収益面が圧迫されているとの報告が多かった。総体的に不景気に加えて、安値競争と売上原価の高騰が収益を圧迫し中小企業の景況は、依然として厳しい状況下であることが窺える。